ニッキパワーパック取扱説明書 TYPE NPJ-10~2200

殿

機番

機種名

承	認	照	查	設	計	担	当
大,		Idx					
Á	1	un	H			1	-

日機電装株式会社

ニッキパワ·パック取扱説明書 TYPE NPJ

NPJ - 10 型----100N. - 223型--- 2.2KW - 20 程----200N. - 370型--- 3.7KW - 40 程----400W - 550型--- 5.5KW - 80 型----800N - 750型---- 7.5KW - 150型----1.5KW -1100型----11 KW - 721型----2.2KW - 2200型----72 KW

ニッキパワーパックは、サイリスタレキナードネなによる核核の駆動源としてまでに各産業分野で好評を得ております。

NPJ 型は さらにない分野で合理的な自動化有力化を推進するため、経済性、 棒能、取扱い同便、信頼性の 4項目を徹底的に追求した制即発置は 可変モータ《普及タイプ・です。

制卵箱は、ケースカバーなどなっていますか、他の制卵箱内に組込み運転する時は、必要に応じてケースオバーをはすっしいのネルタイプ。として満らに
結練します。

尚本装置は半年体国路を使用して高級制印を目的として製化されたものでありますが、以下の説明を充分ご理解ったまちかいるないようご使用下さい。

1. 重漂接続(外部接続图参照)

- 前環館圧は、モータ客量により、20%220カ 50%の HE. 単相(モータ客量 100m~2.2KW)又は 200/220 サ 50%の HE 3相(モータ客量 2.2~22km) 電景を接続(すす、接続は新3台(R.5) スは セユース*に行いすす。 関係は様としてリーセュース*プ*レーカーケー>く場合はリーセュース*に接続します。
- ◎ モータ容量かえる又は3.7kwの場合は、3相電漆を使用するため正規《相順序は接続はする。

電源の相順序が正しく接続されると相検出器の表示が(FL)からります。 点がしない時は電源ので線を入りし換えて下さい。相順序が逆になっていますともつの改降を因となりますので注意して下さい。

.53

	2, 王-夕接统 (外部接绘图卷胞)
	のモータ編子と制印袋電論子の用を正く符号に合わせて確実に
<u></u>	接続して下さい。
ļ Ļ	DCモータッアマチコア (A.4) フィールド (フド)を割中盤摘3台
	(AO.HO.ナ.ド)に各々接続(ます。
	○ 回転方向は整流子側(連結側端っ反対側)から見て時計方向
ļ <u></u> -	(治廻り)です。
	逆回転和必要の野は満多A.H.を入り換えて下でい、
 	3.操作阅译《接続(外部接続图参照)
	·起動.停止」了制印奖置风起勤信号插子(7.8)に外部信号
	(ON-OFF信号)を接続して下さい。
	但し信号のみな停止ではそうダ端主 A,41=アースに対して電圧
	<u> </u>
	起動、停止を行えば、電源をカットすることかできます。
	o 速度調整は制印装置内端子(1.2.3)に外部取付速度設定
	ポリコー4 (10K)をポリコーム満子(1、2、3)(同番号に合せること)
	1=接続しますとスピートコントロールか仕覧に設定できます。
	○速度の設定範囲は、制即栄置内~上限設定ホリコーム (UVR) により
	最高速度設定範围水定格建度の75~100%に設定ですます。
	又下限設定ポリコームにより最低設定範囲が定格速度の
	0~30% に設定できます。
	最低速度設定範囲 外部スヤートコントロール 最高速度設定範囲
	0~30%(LVR) 設定範囲(外部VR) 75~100% (UVR)
	· 外部電圧1つよりスヤートコントロールを行う場合1ま割町装置円端る
	(Z,Ao) 1= 制印电压 E 接続 L 丰丁. 制(印电压 1=比例12连度)
	ヨ変します。
l .	制御電圧は次表の各部電圧を参照して下よい。

4 特殊江港関係、接続(外部接続图参照)

- のACタコンエネ仕様の場合制(那般稿子(X.Y.と)に接続 (計、交流のためいずりを接続にも同様です。
- · DCタマンストは様の場合端子(x)に(+)を(Y)に(-)を接続いす。
- ・速度計を附属する場合し、指定の速度計を外野接続図1= 従って行って下さい。

5、運転時の点夜

- ▲ 電源電圧は、AC 200/220 V 50/60 HZ 1/0% 内で使用(7下でい。
- △ 初甲装置及4·モータ~周囲は通風的けったならないようにして 下さい。
- ▲ 使用周囲温度内 O'C ~ 40°C で使用して下すい。
- △ 以要以外の調整部に子を触れないで下さい。
- △ 競流制限回路か入っていますので、夏荷かモータの定格以上の 時1下.回転数か下ります。またモータ軸など長時间ロック1本い ようにして下さい。
- △ 標準モータリア、防衛保護をですから特殊な周囲条件での使用。 (下)とけるか、全用型モータを使用して下さい。
- ▲ ヒュース断線の場合は構定のヒコーズを入れ換えて下さい。(次表)
- △ 特殊運転ユニットを使用(ない場合IF Ao ~~ 6 は ~~ 5の 短絡して下さい。
- △ タコジェネレータ付でない場合は、×YR 編317使用しないで 下さい。
- A起動信号、F. モータ運転中一場合,車続ON (TFEI)。
- 外部電圧でコントロールする場合(下最高DC18で(E.A3レン))
 又はDC12で(HE、HA3レン) 以上接続しないで下さり。
- △ 相検出赤色表示灯から灯(てない場合)丁運転を行なれないで下さい。(3相密像のみ、NPJ 223~2200)

30

6 調整

a) 電流制限 (IVR)

モータの起動時、停止時及び加減速時の最大トルクを設定する。



DC電流計を装置とモータ、アマインア間に接続する。運転状態でモータ軸をロックして、モータに列での電流が流れるようにポッカム"IVR"で調整する。ボッカム右廻して電流は増す。工場出荷時調整は定格の120%に設定しております。

b) 9コジネスードバック量調整 (EVR)

タコジェネからのスードバック量を調整するホーリウムで みカが一定の時、スードバック量が多くなると回転は下かり スードバック量が少なりと回転はよります。

UVR-max, 人力設定-maxでモータ回転が定格の110% 程度になるように、ボリカム EVRで調整します。

o 基準波調整 (SVR-R, SVR-S, SVR-T)

·各相(R相, S相, T相)の基準/コギリ波のレイルを調整おボッラムです。

出力波形を観察し、各相の出力波形にはすっきが出た は場合には、SVRで微調整することができます。

このSVRを大幅に動かしますと、基準しかれが大幅に経り、 ヒューズがせかれたり装置の故障にっながりますので必要なり 場合には手を触れないで下さい。

20

10

30



